

# 株式会社 鳥羽運送

革新的サービス

一般型

## 農作物別に温度管理が可能な大型冷蔵庫の導入により 新しい流通システムの一翼を担い、生産者の収入UPにも貢献

### 事業内容 食品輸送が基軸 直近10年で業容が拡大

1960年(昭和35年)に和歌山県海南市において運送業を目的に個人創業。元々は車両10台程度の規模であったが、2002年の法人改組によって鳥羽弘基氏が代表取締役役に就任して以降は、同氏による積極的な営業展開を行い、保有車輛は小型・中型・大型車を含めて100台弱にまで拡大している。特に10年前と比べて売上高は数倍に増え、和歌山県内の運送業者の中では著しい成長を遂げている。

輸送品目は、地元農協や農家からの青果物、冷凍食品等

を中心とした食品輸送を軸に、鋼材、電気製品、自動車部品、その他雑貨に加え、近時では土砂運搬も開始するなど、幅広い輸送物に対応している。中距離輸送の比率が高いが、九州並びに関東圏などの長距離輸送も行っている。

最近の取り組みとしては、和歌山県内の観光事業促進を目的に株式会社HOTバスを共同出資により設立。バスには和歌山を訪れた観光客が乗りたくするようラッピングを施している。

### 補助事業 複数の温度管理が可能な大型冷蔵庫を導入

和歌山県は、果物の栽培が盛んであり、みかん、桃、はっさく、キウイフルーツなどの代表的な果物をはじめとして、様々な農作物が生産されている。

これら農産物を和歌山県外に出荷するとき、トラックで輸送することが一般的であるが、関東圏やそれ以東に輸送する際は流通経路の複雑さから輸送に時間と費用がかかりすぎるという問題点があった。これを解決するために同社と連携企業を中心となり、市場・仲業者を通さずに農産物を生産者からスーパーへ直接届ける新しい物流システムを構築した。

この新しい物流システムによって直接農産物を納めることができるようになったものの、農産物ごとの最適な温度管理ができるトラックを保有していなかった。ワンバターの温度帯でしか温度管理ができないトラックで農産物を輸送すると、1種類のための輸送となるために積載率が低く、効



▲コンテナに仕分けされた農作物

率が悪い。また、複数種類の農作物を載せると、農作物ごとの温度管理ができないために劣化が早い。

そこで、今回の補助事業では、3~4種類の温度管理ができる大型冷蔵庫を導入し、和歌山県の農作物の高い品質(高鮮度)を維持するとともに積載率の向上を図った。

### 株式会社 鳥羽運送

代表取締役 鳥羽 弘基  
〒640-8481 和歌山市直川160-31  
TEL: 073-464-0100 FAX: 073-464-0111  
E-Mail: toba@interline.or.jp

(業種)一般貨物自動車運送業  
(設立)2002年4月  
(資本金)10,000千円  
(従業員)90人(常勤社員)

### 成果

## 農作物ごとの温度管理が可能に 積載効率も向上

新たに複数の温度管理ができる大型冷蔵庫を導入したことにより、農作物ごとに適切な温度管理した上で輸送することが可能となった。具体的には、-30度~20度までの温度管理ができるようになってきている。納入先である関東方面のスーパーからは新鮮な農産物が入手できる点が評価されている。和歌山の新鮮な農作物を取り扱うことができることが、同業者(他のスーパー)との差別化にも繋がっているという。

従来は、農作物の鮮度を保つためには、複数のトラックで1台あたり1種類の農作物の輸送しかできなかったが、導入後は1台で複数の農作物を輸送できるようになったため積載効率が上がった。車両台数も必要最低限に抑えることができています。

また、新しい物流システムは、中間マージンをカットする

ため、市場や仲買業者を通さない。これによって生産者は利益が出しやすくなっている。鮮度の良い農産物を手にできる消費者だけでなく、生産者にも喜んでもらえる仕組みの土台を作ることができた。



▲農作物の出荷作業

### 今後の展開

## 和歌山から全国各地の食卓へ 今後は水産物を含めて世界展開も視野に

食料の海外依存率が高まり、食料の安全性が問われることが多くなっている今、安全で美味しい国内産の農産物をより新鮮なうちに、より安く消費者に届ける仕組みづくりは必要である。また、それをさらに発展させ、生産者(農家)の収入を向上させ、雇用を守っていくことも重要なことだと、同社は考えている。

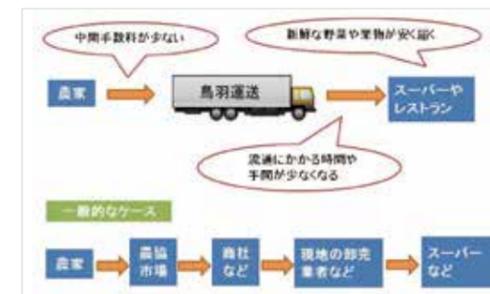
将来的には、和歌山県の農産物にこだわらず、全国各地から最大の消費市場である関東エリアに365日輸送でき

る体制も整えていきたいと意欲的だ。また、現在の輸送品も主体の農産物に加え、将来的には水産物(鮮魚)も扱っていきたいとしている。鮮魚の運送に際しては臭気対策も必要であり、これら課題の解決も目指していく。

農産物の生産者は、なかなか収入が上がらず、同時に後継者不足という問題も抱えている。物流システム全体から生産者を支える新しい仕組みは、既存の流通に一石を投じたとも言える。風穴を開ける、同社の今後の展開に期待したい。



▲青果輸送用の冷蔵大型トラック



▲農作物を新鮮に早く届けるシステム